

令和8年度

徳島市城西中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎・基本の定着を図るわかりやすい授業の実践と家庭学習の連動
○教育DXを取り入れた主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実践

校長

栗原 ひとみ

学力向上推進員

権藤 貴士

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観や教職員の情報共有、研修の活用など、教育活動の様々な機会を捉え、取組み状況の把握に努める。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が定着しており、与えられた課題にもまじめに取り組むことができる生徒が多い。 ●習得した知識・技能を単元を越えて関連付けたり、他教科や実際の生活場面で活用したりすることに課題が見られる。	・自らの課題に応じた自主学習に取り組む、知識・技能を確実なものにしている。 ・習得した知識・技能を別の学習や他教科の課題解決と関連付けて活用することができる。	・デジタル教科書やロイノート等を活用し、視覚的・直感的に「わかる授業」を展開し、個別最適な学びを推進する。 ・自主学習の方法を提示したり、ミラインド等を活用したりして、家庭学習の進捗を把握し、個に応じたフィードバックや反復学習を充実させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合い活動において、自分の考えを伝えて共有したり、他者の意見を傾聴したりすることができる生徒が多い。 ●他者の意見を踏まえて自分の考えを修正・再構築したり、根拠を基に論理立てて説明、記述したりすることに課題がある。	・デジタル思考ツール等を活用して自分の考えを構造化し、根拠を持って論理的に表現している。 ・他者との伝え合いや比較を通じて、自分の考えを修正・深化させている。	・タブレットによる共同閲覧・編集機能を活用し、他者の多様な考えを瞬時に比較、検討できる場면을意図的に設定する。 ・「個人の思考時間」と「協働的な学び」のバランスを意識した授業展開を行う。 ・論理的な記述を促すため、各教科で共通して活用できる「表現方法のモデル」を提示する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○提示された課題や毎時間の「めあて」に対して、見通しを持って集中して取り組むことができる。 ●応用的な課題や未知の問いに対して粘り強く取り組む姿勢や、単元の終わりに自分の学習プロセスを振り返り、次の学習を自己調整する力に課題がある。	・単元全体や授業の「めあて」と自分の学習状況を照らし合わせ、必要に応じて学習方法を自分で修正、調整しながら進めている。 ・応用的な課題に対しても他者と協働しながら、諦めずに粘り強く解決を図っている。	・単元全体の見通しをあらかじめ提示し、生徒が見通しを持って主体的に取り組むことができる場面を設定する。 ・生徒の興味、関心を惹きつけるよう社会や実生活に結びつけた問いを設定し、きめ細やかな個別指導をする。 ・確認テストを行ったり、振り返りシートを蓄積したりして、生徒が自身の変容や成長を確認できる場面を設定する。			